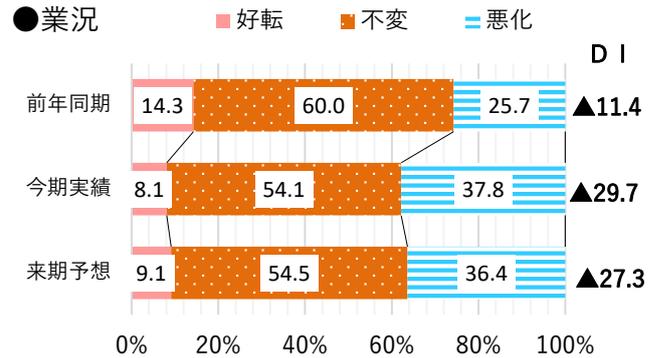


# 製造業

## 業況、売上、採算

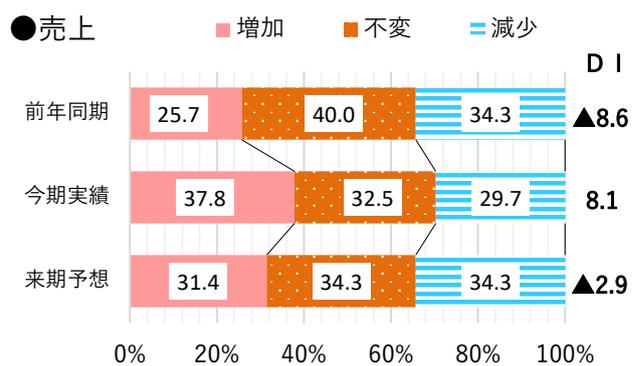
今期(2022.4~6)の業況判断DIは▲29.7で、前年同期(2021.4~6)と比べ18.3ポイント低下しました。

来期(2022.7~9)は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。



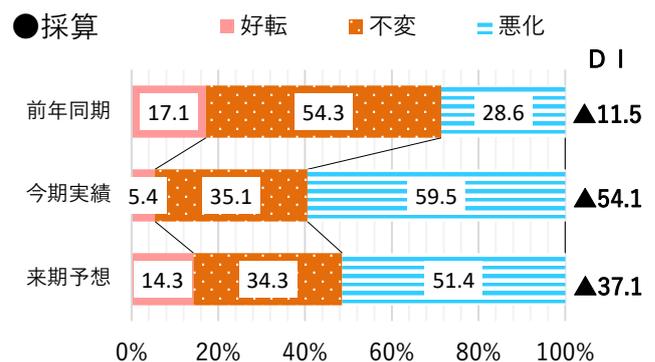
今期の売上DIは8.1で、前年同期と比べ16.7ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上がマイナスに転じると予想しています。

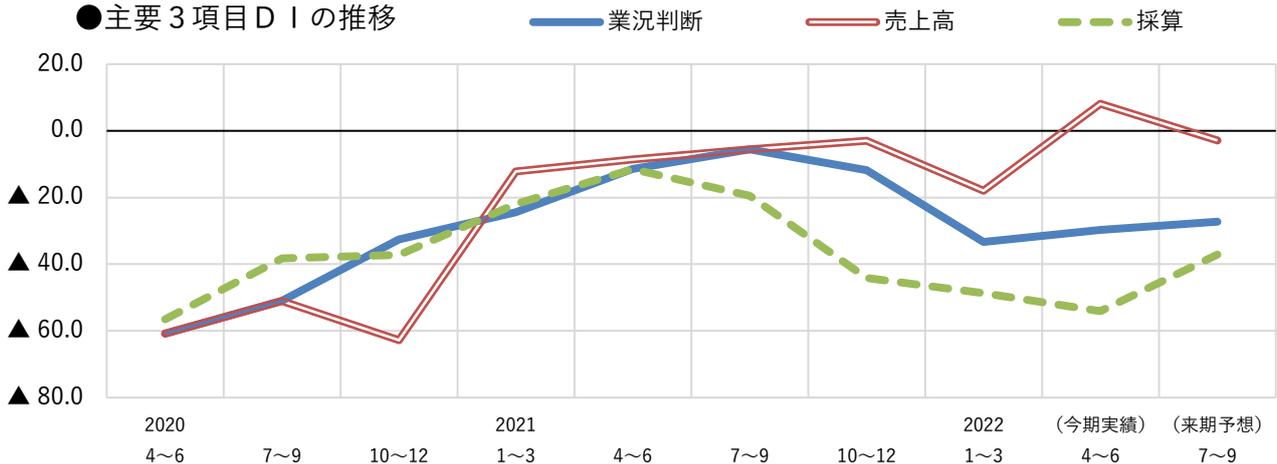


今期の採算DIは▲54.1で、前年同期と比べ42.6ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



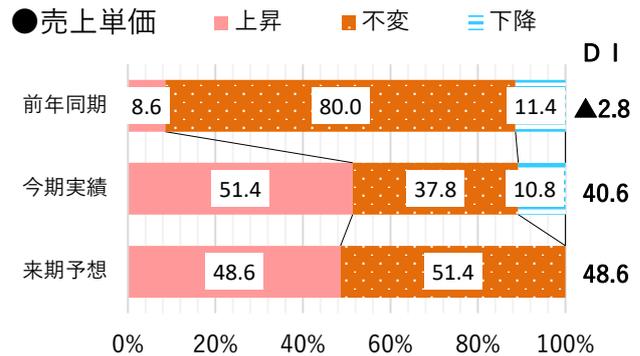
### ●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

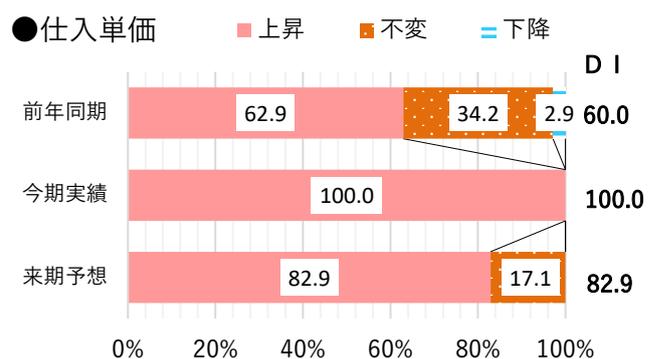
今期の売上単価DIは40.6で、前年同期と比べ43.4ポイント上昇し、大幅なプラスに転じました。

来期は、売上単価の上昇傾向が続くと予想しています。



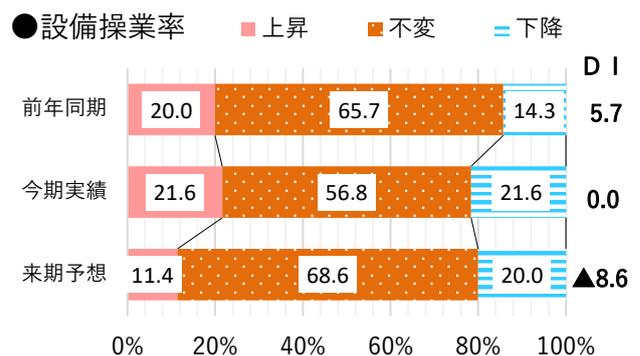
今期の仕入単価DIは100.0で、前年同期と比べ40.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは0.0で、前年同期と比べ5.7ポイント低下しました。

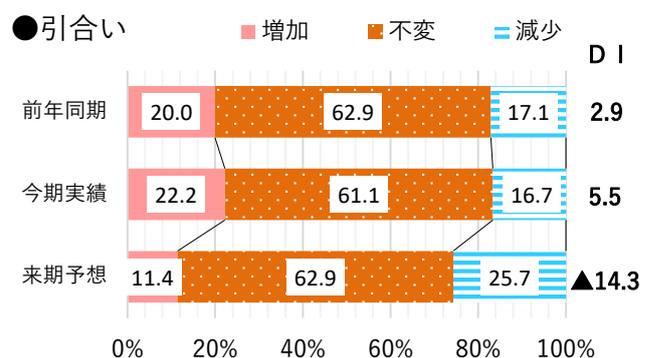
来期は、設備操業率がマイナスに転じると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは5.5で、前年同期と比べ2.6ポイント上昇しました。

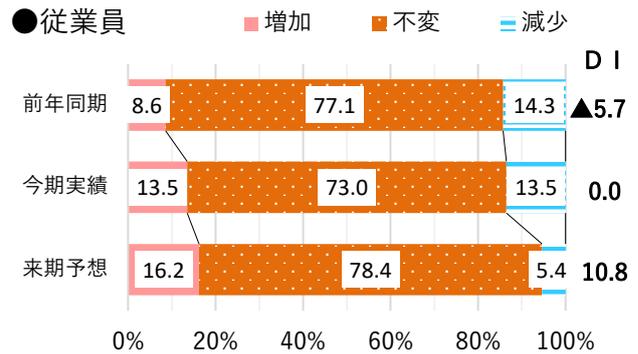
来期は、引合いがマイナスに転じると予想しています。



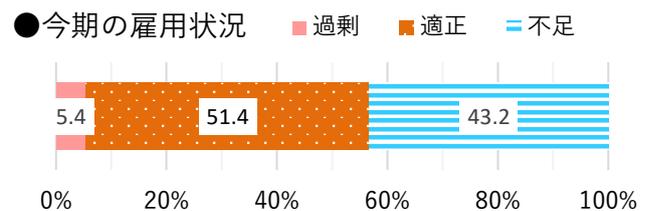
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ5.7ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.4%、適正であると回答した企業の割合は51.4%、不足していると回答した企業の割合は43.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の43.2%を占めています。

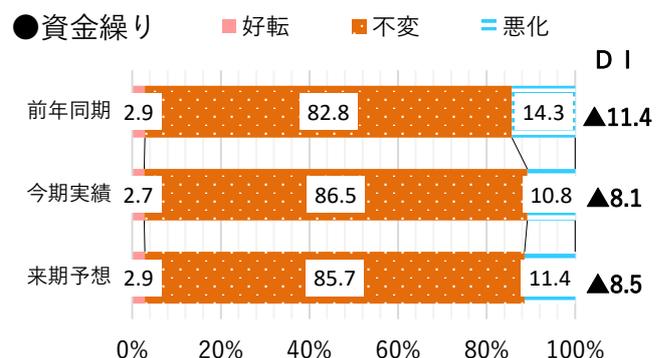
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	4
不変だった	過剰	1
	適正	16
	不足	10
減少した	過剰	1
	適正	2
	不足	2

資金繰り、設備投資

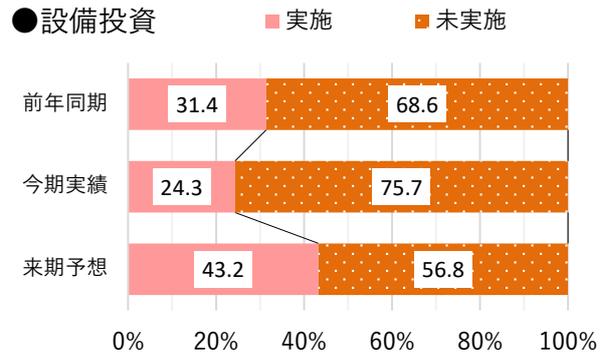
今期の資金繰りDIは▲8.1で、前年同期と比べ3.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が続くと予想しています。



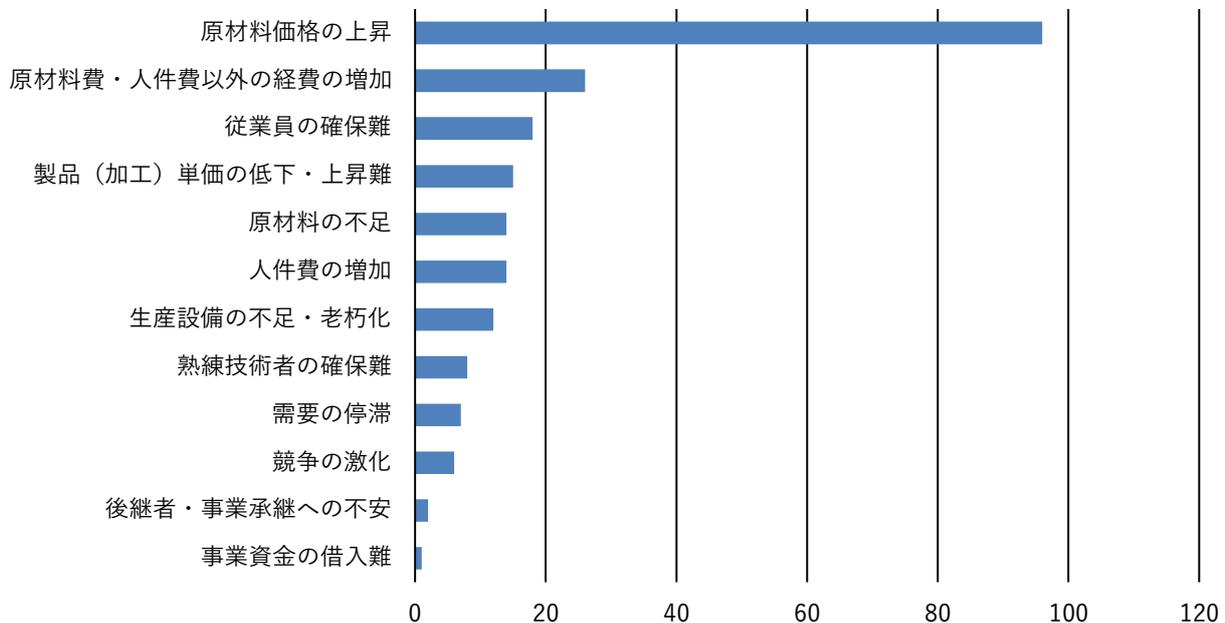
設備投資を実施した企業の割合は24.3%で、前年同期と比べ7.1%低下しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「工場建物」、「付帯施設」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は43.2%で、増加を予想しています。



### 経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「原材料費・人件費以外の経費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



### 企業の声

[今期の業況について]

- 原材料仕入単価が上昇し続けており、納期が延長傾向にあるため、生産計画の見通しが喫緊の課題だ。材料を先行発注で確保しているが、今後は資金繰りに影響が出る可能性がある。（金属製品）
- 工事の延期により、売上が減少した。工事の受注件数が減少し、工場操業率が下降した。価格転嫁が追い付かない。人事評価制度導入に伴い、賃金を引き上げた。（金属製品）
- 材料価格の上昇を受け、販売価格を改定した。（金属製品）
- ロシアによるウクライナ侵攻により、原材料価格が高騰している。また、資材等の仕入先からの値上げの連絡も増加した。商品の販売先には値上げ受け入れの要請をしており、概ね理解をいただいている。パート従業員の求人を出しているが、採用は難航している。（食料品）
- 原材料価格だけではなく、資材等を含めたあらゆる仕入価格が上昇している。3月に商品価格を改定したが、仕入価格の上昇に追い付かず、採算は改善していない。状況は厳しい。（食料品）

- 新型コロナウイルスの流行に伴うイベントの規制や、各種制限が緩和されたことで、売上が増加した。海外からの引合いも増え、業況は好転した。（食料品）
- 原材料価格、燃料価格、物流コスト、その他全てのコストが上昇し、非常に厳しい状況だ。（食料品）
- 原材料仕入単価の上昇により粗利益率が悪化した。光熱費の上昇が、収益が圧迫している。（食料品）
- 6月に原材料仕入価格が8%程度値上がりしたため、自社製品の価格を同程度引き上げた。（食料品）
- 新たに開発した加工品の売上が好調だ。原料の数の子の仕入単価が高騰している。（食料品）
- 今のところは順調だが、自社商品の値上げが今後も受け入れられるのか不安だ。（食料品）
- 原材料価格や燃料高の上昇による収益圧迫が、深刻なレベルになりつつある。（食料品）
- 原材料仕入価格の上昇や、慢性的な人手不足に悩まされている。（食料品）
- 原材料仕入単価の上昇が経営を圧迫している。（食料品）
- まん延防止等重点措置の解除に伴い、家飲み需要が減少し、売上が減少した。（飲料）
- 対前期比で売上は15%、原材料仕入価格は33%上昇した。原材料価格や、電気料金、運送料上昇の影響は大きい。取引先にはこれらの状況を説明し、製品価格の引き上げを打診しているが、業界大手の企業には期中の価格見直しを拒否されるケースが目立つ。当社では製品価格引上げを強行し、売上の増加と採算性の確保に取り組んでいる。（プラスチック）
- 原材料価格の高騰が続いており、販売価格の引き上げを進めているが、完全な価格転嫁は難しく、採算は厳しい。原材料は不足しており、納期も不安定だ。仕事量は増え、工場の人員が不足しているが、求人を出しても応募がない。（プラスチック）
- 原材料仕入単価が上昇しているが、価格転嫁が追い付かない。（プラスチック）
- 原油高に伴い、原材料のナフサ価格が上昇傾向にある。（プラスチック）
- 中国等海外産製品の安定的な輸入に対する不安が高まっており、国内調達の動きがある。（ゴム製品）
- 売上は増加したが、原材料価格も上昇した。（紙製品）
- 新型コロナウイルスの流行で社会が停滞し、観光客が減少している。小樽は観光都市なので、新型コロナウイルスの終息による回復を待つしかない。（印刷）

## [来期の業況について]

- 工事の規模が縮小し、売上の減少が予想される。また、材料費の逼迫により利益率が悪化する見込みだ。賃金引上げ分の価格転嫁は難しいと思われる。（金属製品）
- 今期と変わらないと思うが、東欧情勢と中国のロックダウンの影響が出始められると思われる。（金属製品）
- 数の子の仕入単価高騰および円安の影響が不透明だ。コロナ禍や世界情勢の悪化に伴い、機械部品等の調達が難しくなり、生産への影響が予想される。主力加工品の売上は落ち着くと思われる。（食料品）
- 原材料、包装資材等の値上げの連絡が来ている。価格転嫁は必要だが、売上への影響が見通せない。エネルギー価格や為替の状況も、業況に大きく影響する。（食料品）
- ロシアによるウクライナ侵攻の状況次第で、原材料の調達が不安定な状況が続く。売上は大きく変わらないと思う。（食料品）
- 卸売単価の大幅な引き上げを予定しており、売上が減少すると思われる。（食料品）
- ロシアへの経済制裁により、海産物の輸入が滞れば業績は悪化する。（食料品）
- 商品価格の改定を予定しているが、売上の減少が不安だ。（食料品）
- 原材料価格の高騰と、慢性的な人手不足が続く見込みだ。（食料品）
- 今期同様、製品価格の引き上げを予定している。（食料品）
- 原材料価格の高騰とインフレが続くと思われる。（食料品）
- 夏期のイベント再開と、お中元の時期に合わせた販促策によって売上の回復を図る。（飲料）
- 新型コロナウイルスの流行により減少していた売上は、回復に向かうと思われる。販売単価は今期引き上げた分上昇する。原材料価格の上昇傾向が一段落し、価格交渉は落ち着くと思われる。定年退職予定者分の人材確保に取り組む。（プラスチック）
- 売上単価の引き上げは継続する。円安傾向が進むと、原材料価格はさらに上昇する。（プラスチック）
- 前期同様、原材料の高騰が続くと思う。（プラスチック）
- ウクライナ侵攻等、見通しが立たない状況が続く。（ゴム製品）
- 概ね今期と同様だが、製品価格の改定を予定している。（紙製品）
- 従業員の高齢化に伴い、熟練技術者の確保が難しくなってきている。（衣服）